

団体名：公益財団法人とよなか国際交流協会(ATOMS)

【団体概要】

とよなか国際交流協会は、豊中市や関係団体等と連絡を図りながら、人権尊重を基調とした住民主体の国際交流活動を推進することにより、世界の多様な文化及び人びととの相互認識と理解を深めるとともに、地域の国際化を促進し、新しい地域文化の創造と平和で平等な地域社会づくりに寄与することを目的として 1993 年に設立されました。

2012 年 4 月 1 日からは公益財団法人として、「地域における市民の主体的な参加による人権尊重を基調とした多文化共生社会を創出する事業」をその公益目的事業として行うことを認定され、その目的を達成するためにパートナーとしての地域と学校とともに「地域づくり」「人づくり」を推進すると同時に、マイノリティである外国人が自立していける「しくみづくり」を推進し、誰もが暮らしやすい社会を創造していきます。

【基本理念】

市民の主体的で広範な参加により、人権尊重を基調とした国際交流活動を地域から進め、世界とつながる多文化共生の社会をつくる。



協会キャラクターの「コモとスース」

【協会事業概要】

1. 多様な人びとが尊重される地域づくり事業

マジョリティ社会を変革するために、地域と協働することによって実現する社会づくり事業

具体的には、市民主体の国際交流活動の支援、市民参加によって形成された様々な形の日本語活動への支援、活動を充実させるための対話や学び、研修の場の提供、日本人の子どもをターゲットに対象の裾野を広げる事業などがこれにあたります。

2. 周縁化される外国人のための総合的なしくみづくり事業

マイノリティの権利を保障するため、周縁化される外国人を「安心・エンパワメント」「ピア・ロールモデル」などのキーワードでつなげることにより、社会的排除を受けないしくみをつくる事業

具体的には、外国人のための生活相談やその解決のためのネットワークづくり(おとなサポート事業)、外国人の子どものエンパワメントのための多文化保育や子ども母語、子どもの居場所づくり、学習保障のための子どもの日本語(子どもサポート事業)などがこれにあたります。

3. 学校とつながってつくる豊かな未来事業

次世代を育成していく中で重要な役割を担う地域の学校との協働事業を行うことにより、多文化共生を推進していく拠点をつくる事業

具体的には、豊中市教育委員会が推進する豊中型国際教育への協力、豊中市内すべての小学校で行われている小学校外国語体験活動事業への協力などがこれにあたります。

4. 施設管理受託事業

定款の事業目的である国際交流の機会提供および参加促進の事業、国際理解および国際化に関する事業、在住外国人に対する支援事業などを推進していく活動ならびに同様の国際交流を目的として使用する一般市民を対象に国際交流センター貸室業務を実施しています。

事業実施概要

<p>事業名称</p>	<p>外国人の若者の生活力・表現力アップ日本語事業 ～ユース・多文化エンパワメントプロジェクト～</p>	
<p>地域の課題</p>	<p>大阪府北部に位置する豊中市は、市人口約 40 万人の中核都市であり、外国人住民約 4 千 6 百人が生活している。市人口全体に占める外国人住民の割合は 1 パーセント強であり、外国人少数点在型地域である。豊中市は、北部、南部、東部（東北部）の三つで構成されており、それぞれの地域が異なる特徴や課題を抱えている。外国人居住者をもみても、大学関係者やビジネスマンが多い北部に対して、南部には研修生・技能実習生や国際結婚の配偶者などが多い。</p> <p>とよなか国際交協会では、日本語活動において一定の実績があるが、課題として既存の日本語活動の対象となる学習者から「こぼれ落ちる」層としての外国にルーツをもつ若者の存在が挙げられる。これまでの日本語活動事業では、日本人配偶者や就労目的で来日した人を主な対象としてきた。しかし、就労経験がないまま親の「呼び寄せ」によって来日した若者などの場合、社会経験がなく日本での就労や生活そのものについてのイメージが乏しい場合も少なくない。日本で社会的自立を目指す場合には、日本語はもちろん、将来設計や生活に関する様々な知識や情報が必要となってくる。また、日本語を習得し就労している若者の中にも、生活上の悩みを抱え、安心安全な場所（居場所）を必要としている人がいる。</p>	
<p>事業の目的</p>	<p>本事業では、外国にルーツをもつ若者を対象に、地域市民としての若者の社会参画を促す事業を展開すると共に、関係機関との連携を通じて若者を支援する地域の体制整備を行うことを目的とする。</p> <p>渡日、帰国、日本生まれ・日本育ちなど、多様な外国にルーツをもつ若者がいるなかで、特に、15 歳以上の義務教育対象年齢を超えた若者たちについては、所属や背景が多様であるがゆえに、必要なサポートが行き届きにくい現状がある。各取組を通じて、日本社会において生活を営んでいくための日本語や社会関係（つながり）を、必要とする外国にルーツをもつ若者が、必要な時に利用し、活用していくことのできる活動を目指す。</p>	
<p>事業内容</p>	<p>取組 1</p>	
	<p>名称</p>	<p>ユース☆ライフプランニング日本語講座～外国にルーツを持つ若者応援プロジェクト“よっぷる”～</p>
	<p>内容</p>	<p>本取組では、各専門分野の専門家や関係機関と連携しながら、生活設計や社会生活を送るうえでの基礎となる知識を外国にルーツのある若者の興味関心に沿ったテーマに即して学ぶ日本語講座を開催した。</p> <p>①「～生活まるごと～よみかき日本語講座」 若者にとって親しみのあるテーマに沿って、将来自立した生活を送るために必要な情報読解力や文章表現力などを身につけるための日本語講座。ことわざ、若者言葉、方言など、日常生活でふれることは多いが体系的に学ぶ機会の少ない日本語についても、学んだ。</p> <p>②「～からだところの～フリーダム日本語講座」 ピア（同じ仲間）でありロールモデル（目標となる人）となる外国にルーツをもつ若者にゲストやアドバイザーとして参加してもらうことで、進路や生活に関する悩み・疑問が共有されやすい場づくりを目指した。 また、ダンス教室や料理講座、若者の「たまりば」など若者のニーズ・興味関心に沿った講座を開催した。</p>

平成 25 年度「生活者としての外国人」に対する日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラム（B）

③「まちを知る！しごとを知る！しゃかいを知る！日本語講座」

日本社会や将来についての夢・仕事について語り合うことで、日本社会で生きていくことの展望を持てるような機会を設けた。また、農業を営む人、地域NPO職員から仕事についての話を聞き、働くことについてのイメージを持つ機会を設けた。



取組 1

「～からだところの～フリーダム日本語講座」

『多文化ダンス教室』のダンス前のストレッチ風景。

対象 外国にルーツをもつ若者

時間 1 回 2～4 時間 × 72 回 (全 152 時間)

人数 115 人

取組 2

名称

ユース☆対話・メディア日本語講座

若者たちがピアである受講生同士での「対話」活動を通して、人間関係の構築や拡大を目指し、メディア制作を通しての自己表現を試みた。また、若者の声を引き出されることにより、これまで潜在的であった若者の課題をさまざまな関係機関に認識されていく素地づくりを意識した。そのため、大学機関における資源とネットワークを豊富に利用し、地域住民や行政などへの「発信」を視野に入れつつ取組を実施した。

なお、講座の実施にあたっては、声のメディアを扱う「ラジオ講座」とそのほか広く対話や表現、メディアに関することを扱う「対話・メディア講座」に分け、実施した。両者は、同じ対話やメディアをテーマとしたものであるが、性質的に異なるものであり、また参加する若者にも自分に合う講座を選んでほしいという思いから別講座として実施した。

①「ユース・ラジオ講座」

ラジオという「声のメディア」について制作の基礎や番組構成を知り、実際に自分のオリジナル番組を計画することで、新しい発信の仕方、表現の仕方を学んだ。

②「ユース・対話メディア講座」

内容



取組 2 『ユース・対話メディア講座』講師のお話を聞くときも、オープンな雰囲気でした。

	<p>「対話」のもつ様々な形式を知り、多様なコミュニケーションのあり方について、実践を踏まえたかたちで学んだ。講座ごとの取組みを通して、自分自身についての語りや多様な表現方法を身につけたことで、作品制作の際に被写体として、製作者として、自らの多様なあり方をメディアにて表現することが出来た。</p> <p>また、地域の環境交流センターや成人式、地域の学校にて、様々な対話やメディア表現を試みた。</p>
	<p>対象 外国にルーツをもつ若者</p>
	<p>時間 1 回 2～4 時間×26 回(全 70 時間)</p>
	<p>人数 16 人</p>
連携体制	<p>運営委員会を通じた豊中市関係部署（人権文化部、雇用労働課）、教育委員会（人権教育室・青少年育成課）、大阪大学研究者との連携／豊中市環境交流センターの活動参加、地域で若者支援を行う NPO 団体への訪問／日本語支援ボランティアグループとの連携</p>
カリキュラム案の活用	<p>項目ごとの詳細な参照ではなく、カリキュラム案において示されているプログラム作成のサイクルや指導力評価の一部を参考に事業を実施した。</p>
成果と課題	<p>豊中市内において、外国にルーツをもつ若者を対象とする複数の講座を開催したことは、大きく二つの点で評価出来ると思われる。</p> <p>一つめは、外国人少数点在地域である豊中において、若者対象の講座を設けたことで、これまで「見えない」存在であった若者たちが積極的に集うことのできる「場」の設定が出来た点である。地域において若者が無条件に集うことのできる場は、そう多くない。本事業の取組を通して、少しずつではあるが、地域在住の若者が集まり、主体的に関ることの出来る活動（講座）に参加し始めたことは若者の社会参画という側面からも評価できるだろう。また、このような場を通じてロールモデルとなる先輩や同じ境遇にいる仲間と出会い、自分自身の将来や生き方などについて考えるきっかけを得た若者も少なくなかった。</p> <p>二つめは、本事業を通じて外国にルーツをもつ若者の抱える課題について、行政をはじめとする地域公共機関や若者支援機関との一定の共有が出来たことである。先に述べたように、外国にルーツをもつ若者の抱える課題解決には、専門機関との連携が欠かせないが、「見えにくい」課題も少なくない。本事業運営委員会での情報交換や各機関への聞き取り調査、講座開催の案内などの周知を通じて、若者の課題を地域にシェアし「見える」状態にすることで各機関とも問題意識を共有することができた。</p> <p>とはいえ、より多くの若者への事業の周知と若者のニーズの把握が課題となっている。また、機関連携については、より一層の事業の理解と必要なときに連携し合える体制づくりの構築に引き続き努力をおこなっていく。</p>